

令和7年2月15日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

令和7年度 第2回

心に残る出会い

おはようございます。只今、山崎理事が鍵山秀三郎先生の話がされました。鍵山秀三郎先生の本は何冊も読ませていただいたので記憶が甦りました。凄い方ですね。鍵山先生が創られたトイレ掃除をする団体に何度か遭遇したことがあります。残念ながらご本人にお目にかかったことはありません。講演会を聞きに行った山崎さんを、鍵山先生が姿が見えなくなるまで見送って下さったという話は感動しました。同じような話が本日の論語にもありますので、後程申し上げます。

先日、シムックス創業時からお世話になっている鈴木会計事務所の会長さんが亡くなりました。何度か申し上げていますが、シムックスが創業した時は資本金100万円、借家に電話を1本置いて、社員ゼロからスタートしました。2、3年経って、社員の寮や教育をするための道場を創ろうと思っている時、中小企業金融公庫が警備業界にも融資をするという新聞記事を見て、紹介者もなしに電話をかけました。支店長さんが親身になって骨を折って下さり、お金を借りる事が出来ました。その方が転勤になる時、鈴木先生（当時は社長）を紹介して下さいました。

その時の紹介の仕方が強く心に残っています。私を連れて鈴木先生の事務所へ伺い、「深澤さんはアクセルはあるけれどもブレーキがない。おまけにハンドルもないから、決算書の見方を教えてもらいたい」と引き合わせてくれました。鈴木先生が「お引受けしましょう」と言って下さり、お付き合いが始まりました。最近つくづく、私は人脈に恵まれた、人様の御縁に恵まれたなあと思っています。鈴木先生は88歳で亡くなりました。ご冥福を心よりお祈り致します。

葬儀に関して、私は30代半ばくらいまでは葬儀の都度、出るか出ないかを考えて参列していました。途中で判断するのが煩わしくなりました。一般論で言うと、会社の社長さんより奥様が亡くなった時ほど参列者が多いようです。それを聞いて私も反省し、ビジネスで考えて葬儀に参列するのではなく、最後のお別れをしたいと思ったら、どんな用事があっても参列すると決めました。鈴木先生の葬儀は、お通夜も告別式も参列するつもりです。

やはり縁の深かった方の場合は、どちらも参列したいと思いました。

山崎先生の挨拶から、葬儀に参列する際の私の心持ち、それと、人が人を紹介する時の基本を申しました。人さまを紹介する時は自分が紹介したい人の所へ連れて行き、自分の口から、この人はこういう人なので宜しくと引き合わせる。やはり、心に残るような話をしてくれる人とのお付き合いが、自分の人生の中でどんどん広がったなと思います。

論語から学ぶ

では、論語に参ります。

① 子曰く、し いわ 学まなびて時ときに之これを習ならう。亦また 説よろこばしからずや。朋ともの遠方えんぼう自より来きたる有あり。亦また 樂たのしからずや。人ひと知しらずして 慍いきどおらず、亦また 君くん子しならずや。

(学而第一・1)

学んだら、時々思い出して復習しなさい。復習をするのは何とも楽しい、嬉しいことではないか。

孔子の名前がだんだん広がっていき、孔子に直に会いたい、孔子の話を知りたいと思ってやって来る。そういう人がいるのは楽しいことだ。

他人が自分のことを知らないなどは全く氣にならない。そういう人物は君子と言うべきではないか。

そう、孔子が話をしたということです。

これを今風に置き換えます。トランプ大統領と石破首相が会談しました。トランプさんは石破さんのことを事前に調べて、人となりを知っているように感じました。というのは、トランプさんは無表情で石破さんの話を聞いていました。ですから腹の中に何かあると見えました。

トランプさんが承知しているものとは、石破さんは北朝鮮に弱みを握られている、又は北朝鮮に対してコネがある、ということのようです。石破さんが北朝鮮でハニートラップに陥ったというのは、知る人ぞ知る話です。更に、マネートラップにかかったかどうかは分かりませんが、北朝鮮関係のパチンコ屋さんが鳥取県には非常に多いので、お金絡みのことについても石破さんは北朝鮮とコネがあるのかもしれませんが。ですから北朝鮮絡みの計画を進める場合、石破さんは一つの手駒になるとトランプさんは見ているのだと思います。会談の最後に贈られたトランプさん直筆のメッセージカードは「Mr. P.M.」だけで、石破さんの名前はありませんでした。これらは、先日参加した日中一帶一路促進会の講演会で、鳥取県出身の元参議院議員の方から伺った話です。

トランプさんについて、もう少しお話しします。トランプさんはアメリカファーストと言っていますが、調べてみると、それぞれの国がそれぞれ自国ファーストでやるべきだと言っています。自国ファーストの大統領・首相とは付き合える。グローバリズムはそれぞれの国をダメにしている。アメリカもグローバリズムのおかげで良くなったこともあるが、悪くなったものが沢山ある。だから自分の国を優先してやっていくのだ。関税については、相互関税でやれば良い。関税で自分の国が良くなるうと思っているわけではない。それぞれの国が良くなるように、お互いに関税をかけ合えば良い。結果として、そんなものをかけないで済むようになるはずだ。それぞれの国がそれぞれ自国ファーストでやってゆけば、お互いが尊敬し合える国同士になる・・・という主張です。

こういう報道を何故メディアはしないのでしょうか。そういうものを我々はしっかりキャッチしなければいけません。ですからトランプさんの言っていることも、もう少し中身を見る必要があるだろうと思っています。

② 子曰く、人の己を知らざることを患えず。人を知らざることを患う。

(学而第一・16)

石破さんで考えます。石破さんが総理大臣になった時、この人はこういう能力がある、あの人はこんな能力がある、と知っていて組閣をしたのでしょうか。他から圧力を受けて、大臣にしているわけでしょう。副大臣にしても似たようなものです。その人たちのことをよく知らないまま選んだ可能性が大です。

したがってここは、人を知らないまま大臣にする者があるか！ と読みました。

③ 君きみ召めしてひん擯ひんせしむるときは、色いろ勃ぼつ如じょたり、・・・賓ひん退しりぞくときは、必かならず復ふく命めいして曰いわく、賓ひん顧かえりみずと。

(郷党第十・3)

君主が国賓を迎えるにあたって、接待役を命じられた時は、顔色が少し変わる。見た目にも居ずまいを正していると、君主にも見せなければいけない。

国賓が帰る時には門の外まで見送りをし、国賓が振り返らなくなるまで丁寧に見送ったことを君主に報告する。

上毛かるたを作られた浦野匡彦先生が、吉田茂さんのお宅を訪ねた時の話を致します。浦野先生が帰る時、吉田茂さんがステッキをついて見送りに出られ、先生がお辞儀をして

門を出る時にも、丁寧にお辞儀を返されたそうです。更に、浦野先生が車に乗り込むと、また一礼をされた。車が曲がり角を曲がる時、浦野先生が振り返ると、吉田茂さんは道まで出て見送っておられたそうです。恐縮して冷や汗が出たと浦野先生からお聞きしました。それ以降、先生はその時のことを思い出しながら人を見送るようにしていると言っておられました。

恒例の質問

では、後半に参ります。恒例の質問を致します。今年に入ったばかりですが、お聞きします。

- 今年に入って、良い日が続いていると思う方
- 今年に入って、嘘はつかなかつたし、つかれなかつた方
- 今年に入って、有難うと言いつづけているし、言われ続けている方
- 今年に入って、身体の手入りをよくやっている方

私も一生懸命、身体の手入りを致します。昨日は11時過ぎまで調べ物をしていたので少し眠かったのですが、朝はいつも通り自転車に乗って、渡良瀬川の土手を走りました。

自転車で土手を走っていると時々、川に向かって4、5人が手をつないで声を出しているところを見かけるのです。或る時、自転車を止めてよく見ると、中齋塾フォーラム誌友会員の福田さんが、お仲間と論語の素読をしているように見えました。福田さんは中齋塾フォーラムを立ち上げた時の代表幹事で、創立記念式典では湯島聖堂の大成殿で大勢の方を前に素読の主導をされました。福田さんは以来、素読が習慣になったそうです。

- 今年に入って、自分磨きをやっている、よく学んでいる方

身体の手入れは、身体を動かします。自分磨きは、心を磨くと考えています。皆さん、手が挙がりました。自分で自分を認めるのが一番よろしいですね。

最後の質問、眠る時の満足感についてお聞きします。

- 昨晚寝る時、今日は良い日だったと満足して眠った方

そう思ったなら同時に、明日も満足して眠れるかなと考える。それが進むと、明日も良かったと過去形で思えるようになります。

令和7年を考える

ではレジュメに従って、テーマ「令和7年を考える」に参ります。いくつかキーワードを挙げました。判断の三原則（本質・歴史・大局）で眺めてみましょう。

1、税金の仕組みはこれで良いのか

税金の仕組みについて伺います。まあこんなものだろうと思う方？ どこかおかしいと思う方は手を挙げて下さい？・・・皆さんおかしいと思っておられます。私も同じです。

本質で見ると、誰が見ても税金を取り過ぎている。

歴史的に見ると、江戸時代に一揆の箆旗が立ったのは、五公五民（稼ぎの半分を税金で取る）の場合です。四公六民（稼ぎの4割が税金、6割は本人の懐に残る）だと箆旗は立たない。一揆は起きないわけです。五公五民は箆旗に直結する。何故かと言えば、食べられなくなる、飢え死にする可能性が大になるからです。

今の日本は、既に五公五民を超えています。それなのに箆旗が立たないのは、食べられるからです。

今朝の上毛新聞に農水省の発表で、来月には備蓄米を放出するので下旬には店頭に並ぶだろうとありました。そこら辺までは良いのですが、大臣の発表の仕方は如何かと思えます。本来は備蓄米を放出してはいけないのだけれども、流通に問題が起きたので、政府として必死に考えて決断し備蓄米を放出することに決めたという内容でした。なぜ備蓄米を出さないのか！ という声が高まって、怨嗟の声が政府に向かって集中するであろう。言い方を変えると、米一揆が起きる危険性を感じたから備蓄米を放出している・・・と、語るに落ちる発表だと思いました。

真偽は分かりませんが、渋沢栄一の新札を発行する少し前に、預金封鎖をやろうと財務省の中の一部で考えて、具体的なスケジュールを練ったようです。これは大変な話です。預金封鎖を前提に、終戦直後を参考にして手順を練ったけれども、実際には実行しませんでした。ユーチューブには、そういう話がチラホラありますね。週刊誌は見あたりませんが、小さな雑誌にはやはりチラッと出ています。おそらく財務省の中の人間が漏らしたのでしょう。

マクロで見れば、政府が予期封鎖をする可能性は更に高まったと思っています。ということは、一揆を想定しているということです。当然、デノミネーションもやるでしょう。私が気にしているのは、ロシア型のデノミネーションです。これをやられたら大変です。俗に言うデノミは、お金の単位を変える。ところがロシアのデノミは、お金の価値を変えたわけです。1万円札を1円と呼び変えることによって、1円の値打ちしかなくなってしまう。1円の価値しかない1万円札では、お米も買えません。これがロシアのデノミネーションでした。

私はロシアが経済破綻を起こした後、実際にロシアに出かけて行って調べました。それは悲惨な状況でした。給料を貰っている人たちは、給料がなくなったに等しいわけですから、幾つもの仕事を兼業しなければ生きてゆけなくなりました。それが出来ない人たちは、自分で家庭菜園をやって食べ物を作っていました。モスクワ市では、土地を持っていない市民の希望者に300坪の土地を分けましたから、土地を貰えた人は必死になってじゃがいもを作って生き延びることが出来ました。それも出来ない人たちは、約2000万人が飢え死にしていました。これがロシアで起きたことです。

日本はそこまではいかないでしょうが、闇市は当然出現します。そういうものを前提にして考えると、今回の備蓄米放出の背後にある政府の思惑は、どこまで進んでいるのかと考えざるを得ません。

そういうことを踏まえて税金の仕組みはこれで良いのか考えると、政府は税金まがいをどんどん増やしているので、五公五民はとっくに超えています。私の実感では六公四民です。その上、食べ物がなくなったら、国民は六公四民に気がつきます。

なぜ政府がマイナンバーをあれだけ必死になって進めているかという点、国民から税金と税金まがいを取るためです。デジタル社会を作るためと謳っていますが、各国の政府が見ているデジタル社会とは、中国のように国民のあらゆるデータを保有したいわけです。マイナンバーの後ろに、税金を取る仕組みが隠れています。そのために景品をぶら下げて、必死になってマイナンバーを国民に持たそうとしています。

二十数年前、日本が財政破綻を起こしてIMFが介入した場合、何をするかという「ネバダレポート」の存在が国会で取り上げられました。1997年に韓国がIMFに救済を求めた時は、金利が35%になりました。日本は今、0.5%です。次は1%と公然と語られ始めましたが、そこから先には当分行かないでしょう。金利を2%上げたら日銀が破綻の道を直進するので、自分で自分の首を絞めるようなことをしないはずですが、日銀が倒れるということは、政府が倒れることですから、その前にハイパーインフレが起きるでしょう。

IMFが日本に介入した場合、まずやることは銀行の営業停止、そして預金封鎖です。ネットバンキング、クレジットカードや電子マネーも止められて、決済が出来なくなります。お金が世の中に出回らなくなります。これは予測ですが、財務省は当然考えているはずですから、順番ですぐに実行すると思っています。

私は国会図書館に行って、終戦直後に日本がやったことを調べて、色々な資料をコピーして来ました。緊急金融措置令については、何度も申し上げています。まず預金封鎖をし

て財産税、それとは別に資産税をかけるでしょう。終戦直後は富裕層と思われると、財産税が9割取られました。

今、私が調べているのは、もし預金封鎖が始まったら日本政府は何をするかです。こういう事を考え始めたのは、財務省の中で預金封鎖を検討したという話を聞いたからです。財務省が検討したのなら、民間で検討するのは当たり前です。これからそういう話がどんどん巷に出てくるはずですよ。そういうことを予測する本が売られるはずですよ。

2、なぜ日本は弱体化したのか

日本が弱体化したのは、政治家が馬鹿になったから。政治家が政治家としてやるべきことをやらなくなったからです。官僚も同じくです。政治家の世襲の仕組み、それから官僚の天下り、こういうもので日本の弱体化が進んだと思っています。

3、食べるものがなくなる日は来るか

来るに決まっています。昨年からシムックスでは、農業プロジェクトを立ち上げました。まず第一段階として、各営業所でプランターで野菜を栽培しています。ブロッコリーや二十日大根、ほうれん草などに挑戦し、収穫をして美味しかったという声を聞きます。営業所を回っていると、土いじりは結構面白いと言う人が出て来ました。今年は、フレコンバックという大きな袋を使って、さつまいもを作るチャレンジをします。袋を台車に乗せて動かせるようにしてはどうかとか、収穫後の土を再利用する、といった色々な知恵が出て来ています。

そして来年は、ある程度の広さの菜園で作物を作ろうと考えています。それが続けば、それぞれの家庭菜園が出来る。家庭菜園が出来たら、会社が直営で農場を作る。最終的には、シムックス型スマートシティの中に農場を作りたいと思っています。それには何年もかかるでしょう。

米がなくなる。食べ物がなくなる世の中が来る。そのために農業プロジェクトを一生懸命やっている最中ですから、せめてさつまいもが収穫できる頃まで、食べ物のなくなる日が来ないことを願っています。参考にして戴ければと思い、申し上げました。

4、日本は戦争に巻き込まれるか

巻き込まれるに決まっていると思っています。どうすればよいかは、次回お話致します。

5、少子高齢化のもたらすものは何か

普通に考えれば、何もしなかったなら日本という国はなくなると思います。一体いつ頃なくなるのか、色々な予測が世の中に溢れています。どうぞご自分で調べて下さい。

お時間が参りました。最後に対策を申し上げます。

日本が弱体化して、食べ物がなくなり、政府から税金・税金まがいが根こそぎ巻き上げられる・・・こういう事態が現実のものになりかかっています。では何をやるか。基本は、以前から申し上げている自給自足です。具体的には備蓄をしなければいけません。食べ物は自分のところで準備をする。災害に備えて1週間くらいは備蓄しましょう！という政府の呼び掛けに乗っかるもよし。3ヶ月間は自分で生き延びて！という東京都の話に乗ってもよし。その人の危機感によって違いますから、ご自分で考えて下さい。

ちなみに私は、缶詰をかなり備蓄しています。10年くらい前にアメリカ軍用の食糧缶詰を買いましたが、これは長持ちしますね。開けて食べたら美味しく食べられました。日本の缶詰はだいたい2年とか、せいぜい5年くらいでしょう。

飲み物も必要です。今は5年くらい日持ちする水が売られています。一度にどさっと買うのではなく、少しずつ買っていけばよいでしょう。また、水に関して言えば、どの川の水が飲めるかとか、水源はどうか等を調べておくとよいでしょう。

それから物々交換のタネが必要です。終戦直後は、着るものを持って農家に行き米と交換しました。衣服だけでなく、自分の持っている物々交換のタネを用意しておくこともお勧めします。

お時間になりました。本日はここまで致します。